



小橋敏弘の ニッポン大好き!Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.22 ちょっと大袈裟な題目「運命」

運命

2か月ぶりです、CAMEL 読者の皆さんお元気ですか。今日、スイス時間の5月23日、快晴のスイスです。セーター一枚着ていれば普通に散歩できるぐらい温かくなっています。ここ、スイスの6月は日本のように梅雨もなく新緑が大変美しい季節です。日本のように桜の花が咲く豪華さや華やかさこそないものの、長く寒い冬を終え大自然の木々がまさに目を覚ましたと言う表現が一番適している季節のスイスです。



春先に風邪を引き、ついつい出不精気味で運動不足を実感している筆者は、今朝も30分ほどベッドに丸まった状態で、起きようか起きまいか自問自答をしながら、最近始めた早朝散歩に日々励んでおります。音楽を聴きながら歩く日もあれば、ただひたすら山々の木々をみながら歩く日もあります。鈍感な筆者でも、壮大な自然の中を歩くだけ、不思議と色々たわいもないことを思い浮かべたりし、今日はそのたわいもない自分の70年の人生の時系列をたどりながら、まだまだ若い読者の皆さんになにかヒントをお届けできればと今回のコラムを書いて

おります。



今だから話せる自分の過去の経験を思い出しながら、今回のコラムを始めたいと思います。日本人の学生ならほぼ全員経験している大学受験、筆者は世間でよく言われる受験校と言われる岡山県の高校を卒業し、東京の某大学を受験しましたが、ご多忙にもれずと言うかまさに絵にかいたような受験失敗を経験し、1年間の浪人をするはめになりました。そしてその翌年も受験に失敗し、滑り止めに受けた大学への進学をするか、イギリスへの留学を選ぶか両親に言われ、なぜかイギリスへの留学を決意したと言っわけです。

さてそこで、最近、自問するのですが、もしあの時、運よく東京の大学の受験に合格し、そのまま卒業していたら、多分、一般的な選択肢である首都圏のサラリーマンになり、どこかの企業に就職していたに違いはないのですが、幸か不幸か受験に失敗し、イギリスへの留学の道を選択できたおかげで、その後、結婚、離婚を経験して人生の大半をここスイスで過ごす結果になってしまったわけです。つまり受験失敗のどん底を経験させてもらったおかげで、その後のスイスでの就職への道もひらけ、人並みに愛せる人と出会い、就職中には長期休暇をエンジョイできる、日本で仕事をされているサラリーマ

ンでは到底夢のような人生を送ることが出来たわけです。

運命 Fate と宿命 Destiny の分かれ道が、自分の場合はまさに当時の受験失敗だったわけです。もしこのコラムを読んでいたという読者にも、もしかして不運な経験をされている方がいらっしゃるようでしたら、ほんの少しだけ筆者の苦い経験が、年月を経て後に考えてみると、意外と幸運だったかもしれないかも。読者の皆さんにもほんの少しだけ励みになれば幸いです。

宿命は受け入れなければならないが、運命はある程度は自分で変えられると言う人もいらっしやるでしょうが、どうなんでしょうね。

70年ほど生きている筆者ですが、トドのつまるどころ、本人がポジティブ志向であればもしかすると自然と幸運へ導かれ、ネガティブ志向だとやはりなんとなく自分の望んでないような方向へ向いていくように感じております。

日々、たわいもないことで妻と口論になったり、花粉症の季節ゆえか、理由もなく頭痛とか微熱がでては、落ち込んでみたりしている自分に、オイオイ何をやっているんだと叱咤激励を飛ばしております。

20個悪いことがあっても一つぐらい良いことがあればラッキーなのかも知れませんがね。読者の皆さんはどう思われますか。

運命とか大袈裟な題目になってしまいました。が、人の人生とか自分の生き様を走馬灯のように思い浮かべたりしている今日この頃でした。このたびも読んでいただき有難うございました。

profile 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。



写真/筆者(右)と妻

